

シラバス 番号	36	科目名	看護学概論	科目の 区分	専門分野
履修年次	1年次前期	単位数	1	時間数	15
担当講師	専任教師				
授業概要	看護学を学ぶ学生が最初に学習する専門科目であるが、永遠に「看護とはなにか」を追求し続ける学問でもある。看護学の全体の基本内容を含み、看護の本質について看護観、人間観、世界観を形成する基礎とする。職業としての看護はサービス業である。安全で安楽、その人の自立を支援する看護サービスの本質は本校の教育理念である「人道」とも関連することを学ぶ。				
授業目標	1.「看護学概論」は何を学ぶのか理解する。 2.「看護」の対象である「人間」について考える。 3.健康の概念について考える。 4.「看護」とは何かについて考える。 5.社会の要請にこたえ得る国家資格を持つ職業として「看護師」の心構えについて考える。 6.「看護であること」「看護でないこと」について理解する。				

#### 授業計画

回	項目	内容	方法		
1 4.20	看護学への導入 看護とは	1)本科目のカリキュラム全体の位置づけ 2)看護学概論は何を学ぶのか・学び方 3)看護のイメージ 4)イメージマップの書き方 5)看護の語源・原点	「教育課程」使用 講義 演習 イメージマップ		
2 4.26	看護の対象の理解	1)人間についてイメージマップ 2)「人」と「ヒト」 3)たくましく、うまく、よく、生きる人間 マズローのニード論 4)生活者としての人間 5)生涯発達しつづける存在としての人間 6)看護の対象としての家族・集団・地域	講義 演習 イメージマップ		
3 5.10	国民の健康状態と生活	1)健康のとらえ方 2)障がいのとらえ方 3)社会の変化と健康観の変化 4)人々の生活と健康に関する統計	講義 演習		
4 7.7	看護の本質	1)臨地実習の体験から考える 2)看護の定義・看護理論 3)役割と機能	講義 演習		
5 7.14	看護の提供者 職業としての看護	1)職業としての看護 2)保健師助産師看護師法 3)免許を持つということ (専門職に就くということ)	講義 演習 次回の演習説明		
6 7.2	保健医療システムと看護	保健医療システムと看護 グループワーク テーマ: 看護職者のキャリア開発 地域包括ケアシステム 看護職の役割拡大 看護サービス 他国の看護 ある時代の看護 等	演習		
7 8.31	保健医療システムと看護	グループワーク発表(ジグソー)	演習		
8 9.7	看護の物差し	看護であること、看護でないこと 看護実践を考える時の「看護のものさし」について理解する	講義 演習		
テキスト	系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論 別巻 看護史 看護倫理 他 看護覚え書き フロレンス・ナイティンゲール 日本看護協会出版会 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版会				
参考教材	看護者の倫理綱領 日本看護協会 ナーシングチャンネル「看護の歴史」「看護論」4月～9月までに各自視聴				
成績評価	終講時学科試験 課題レポート 演習の参加度・プロダクト評価				

シラバス 番号	37	科目名	コミュニケーションⅡ		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	15
担当講師	専任教師					
授業概要	看護・医療における効果的なコミュニケーションのための知識、技術、態度を学ぶ					
授業目標	1. 看護場面での効果的なコミュニケーション技術・実際を理解する 2. 実習体験や演習を通して看護専門職としてのコミュニケーション能力を高める 3. アサーティブ・コミュニケーションについて理解する 4. 対人関係の振り返りについて理解する 5. コミュニケーション障害への対応について理解する					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1	効果的なコミュニケーション技術	1) コミュニケーションに必要な能力 聴く、話す、理解する、感覚・感性を磨く 2) コミュニケーションに必要な態度 プライバシー、対象者の尊重 3) コミュニケーションを妨げるもの(ミスコミュニケーション)	講義			
2	効果的なコミュニケーションの実際	1) 傾聴の技術 傾聴することの重要性 聴くことの利点・意味・効果 共感的理解 2) 情報収集の技術 情報を得るための技術 オープンエンドクエスチョンとクローズドクエスチョン 3) 説明の技術	講義 演習			
3		アサーティブコミュニケーション	講義			
4			演習			
5		模擬患者演習	演習			
6						
7	対人関係の振り返り	プロセスレコード	講義			
8	コミュニケーション障害への対応	1) コミュニケーションに障害がある人の特徴 2) 言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3) コミュニケーション障害がある人への対応	講義			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院					
成績評価	終講時学科試験					

シラバス 番号	38	科目名	フィジカルアセスメント I		科目の 区分	専門分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師2名					
授業概要	観察・アセスメントの技術は、情報収集を行い対象の全体像を把握し看護を展開する上で、出発点となる重要な技術である。アセスメントは身体面だけではなく、対象の身体的・社会的・精神的な面をアセスメントし全人的に捉える必要がある。既習の解剖学・生理学の内容と結びつけながら、アセスメントの視点を捉えていく。そして、学んだアセスメント技術を活用できるよう、健康な生活者を対象に演習を行いながら講義を展開する。					
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師の観察の意義を理解することができる。</li> <li>2. 一般状態の観察、生命の徴候であるバイタルサインを測定する意義を理解する。</li> <li>3. バイタルサインの基礎的知識、正確な測定方法を習得する。</li> <li>4. バイタルサインに合わせ、全身状態を系統的に把握するためのフィジカルアセスメントの基礎的知識を習得できる。</li> </ol>					

#### 授業計画

回	項目	内容	方法
1	看護における関心とは 観察とは ヘルスアセスメントとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護における観察とは</li> <li>・観察の方法</li> <li>・フィジカルアセスメントとは</li> <li>・フィジカルアセスメントの進め方</li> <li>・フィジカルアセスメントの4つの基本技術</li> <li>・フィジカルアセスメントの意義、目的</li> </ul>	講義
2	部分のアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全身の概観(外見や行動)</li> <li>・精神機能</li> <li>・栄養状態</li> <li>・外皮系</li> <li>・頭頸部</li> </ul>	講義
3	部分のアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・眼、耳、鼻、口</li> </ul>	講義
4	部分のアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胸部 呼吸系</li> </ul>	講義・演習
5	部分のアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹部 消化系</li> </ul>	講義・演習
6	バイタルサインとは 体温	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイタルサインとは</li> <li>・体温とは</li> <li>・体温に影響を及ぼす因子</li> <li>・体温の平衡</li> <li>・体温調節のメカニズム</li> <li>・体温の異常</li> <li>・電法と生理学的メカニズム</li> </ul>	講義
7	体温を調節する技術 電法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電法の効果と適応</li> <li>・冷電法、温電法の方法</li> <li>・冷電法(氷枕、氷のう、氷頸)</li> <li>・温電法(温枕、温シップ)</li> </ul>	講義・演習
8	生命の徴候を観察する 技術 脈拍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脈拍とは</li> <li>・脈拍調節のメカニズムと影響因子</li> <li>・脈拍部位と測定時のポイント</li> </ul>	講義
9	生命の徴候を観察する 技術 血圧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血圧とは</li> <li>・血圧調節のメカニズムと影響因子</li> <li>・血圧測定時のポイント</li> </ul>	講義
10	バイタルサイン測定の実 際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血圧測定</li> </ul>	演習
11	生命の徴候を観察する 技術 呼吸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸とは</li> <li>・呼吸調節のメカニズムと影響因子</li> <li>・呼吸測定部位と測定時のポイント</li> </ul>	講義

回	項目	内容	方法
12	バイタルサイン測定の実際	・バイタルサイン測定 体温・脈拍・呼吸・血圧	演習
13	呼吸を楽にする技術	・呼吸のニーズに関するアセスメント ・障害の種類 ・呼吸を楽にする方法の選択 効果的な呼吸方法、痰を喀出させる方法 吸入・酸素療法	講義
14	呼吸を楽にする技術の実際	・呼吸を楽にする方法の選択 効果的な呼吸方法、痰を喀出させる方法	演習 グループワーク
15	看護を展開する技術	・看護記録の機能と法的意義 ・看護記録の様式 (POS、フォーカスチャーターティング、経時的叙述的看護記録) ・記録に関する留意事項 ・情報の伝達・共有の目的と留意事項 ・報告	講義
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 医学書院 学研 看護技術プラクティス 学研 フィジカルアセスメント完全ガイド(第3版) 藤崎 郁 資料		
参考資料	ナーシングチャンネル フィジカルアセスメント		
成績評価	終講時学科試験		

シラバス 番号	39	科目名	フィジカルアセスメントⅡ		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師					
授業概要	フィジカルアセスメントⅠの学びを活かし、症状・徴候・身体機能から系統的にフィジカルアセスメントを行い、必要なケアを判断し、実施する能力を養う					
授業目標	1.症状・徴候からアセスメントをすることができる 2.身体機能別のアセスメントをすることができる 3.患者の状態を判断し、緊急性の有無、必要なケアを考えることができる					

授業計画

回	項目	内容	方法		
1	臨床推論とフィジカルアセスメント 看護を展開する技術	臨床場面を踏まえたフィジカルアセスメントの意義  看護記録の方法の復習	講義		
2	フィジカルアセスメントの実際	1)ふらつきを主訴とした患者のアセスメント	講義、グループワーク、発表		
3		2)発熱を主訴とした患者のアセスメント			
4		3)腹痛を主訴とした患者のアセスメント			
5		4)呼吸苦を主訴とした患者のアセスメント			
6		5)胸痛を主訴とした患者のアセスメント			
7		6)全身麻酔の術後の患者のアセスメント			
8		7)化学療法を受ける患者のアセスメント			
9	フィジカルアセスメントの実際	患者を設定し、フィジカルアセスメントを行う 1)ふらつきを主訴とした患者のアセスメント	演習		
10		2)発熱を主訴とした患者のアセスメント			
11		3)腹痛を主訴とした患者のアセスメント			
12		4)呼吸苦を主訴とした患者のアセスメント			
13		5)胸痛を主訴とした患者のアセスメント			
14		6)全身麻酔の術後の患者のアセスメント			
15		7)化学療法を受ける患者のアセスメント			
テキスト	医学書院 全巻				
参考資料	ナーシングチャンネル フィジカルアセスメント ナーシングチャンネル 基礎看護、成人看護				
成績評価	終講時試験、レポート				

シラバス 番号	40	科目名	生活を整える1		科目の 区分	専門分野
履修年次	1年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師					
授業概要	日常生活活動の場である環境を調整する技術を学ぶ。 清潔と衣生活の意義を理解し、清潔援助技術を学ぶ。					
授業目標	1. 環境が人間に与える影響を理解したうえで、環境を調整する技術を習得する。 2. 人間の活動・運動の意義を理解し、患者が健康生活を送る為に必要な援助方法を習得する。 3. 対象の清潔の意義と衣生活を理解し、基本的な清潔援助技術を習得する					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1	環境調整技術	・療養生活の環境	講義			
2		・病室環境のアセスメントと調整 【演習】ベッド周囲の環境整備	演習			
3	活動・休息 援助技術  苦痛の緩和・ 安楽の確保 技術	・体位の種類、特徴 ・活動・運動の生理学的メカニズム ・体位と呼吸機能・循環血液量との関係 ・ボディメカニクス ・体位保持(ポジショニング)	講義			
4		【演習】ポジショニング、体位変換	演習			
5	環境調整技術 の実際②	・病床を整える	演習			
6		【演習】ベッドメーカー 臥床患者のリネン交換				
7	清潔・衣生活 援助技術の アセスメント	・身体の清潔の意義(生理的・心理的・社会的意義) ・洗剤の作用 ・清潔ニーズのアセスメント ・清潔援助方法の選択	講義 グループワーク			
8	清潔・衣生活援 助技術の実際 ①	【演習】足浴	演習			
9						
10	環境調整技術 技術チェック	【技術チェック】患者の病床を整える 体位変換、ボディメカニクス、リネン交換含む ※自己学習: 廃用症候群	技術チェック			
11						
12	清潔・衣生活援 助技術の実際 ②	【演習】全身清拭、	演習			
13						
14	清潔・衣生活援 助技術の実際 ③	【演習】洗髪	演習			
15						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術 プラクティス 学研					
参考資料	ナーシングチャンネル 人体の構造と機能					
成績評価	終講時学科試験(30%)、終講時実技試験(70%)					

シラバス 番号	41	科目名	生活を整える2		科目の 区分	専門分野
履修年次	1年次後期	単位数	1		時間数	30
担当講師	専任教師2名					
授業概要	生活を整えるための、食事・排泄・移動の基本的な援助技術が習得できる					
授業目標	1. 食事の意義を理解し、栄養状態を整えるための食事の援助技術を習得することができる 2. 排泄の意義を理解し、排泄の援助技術の習得することができる 3. 生活していく上で必要な移動技術が習得できる					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1	食事のアセスメントと援助方法	1) 食事行動のアセスメント 2) 食事援助の方法	講義			
2	食事援助の実際	1) 食事摂取行動とアセスメント	演習			
3	口腔の清潔援助	1) 口腔ケア	講義			
4			演習			
5	排泄援助のアセスメント	1) 排泄援助を受ける対象の理解 2) 排泄行動の自立と阻害する因子 3) 排泄に影響をおよぼす因子 4) 自然排泄を阻害する因子 5) 自然な排泄を促す援助	講義			
6	排尿・排便の援助	1) 便器・尿器の当て方 2) 陰部洗浄	講義			
7			演習			
8	治療的排泄援助技術の理解(浣腸)	1) 浣腸の適応と種類 2) 目的・作用 3) 浣腸の管理	講義			
9	治療的排泄援助技術の理解(導尿)	1) 導尿の適応と種類 2) 一時的導尿の方法 3) 持続的導尿の管理	講義			
10	浣腸の実際	1) 浣腸	演習			
11						
12	導尿の実際	1) 導尿	演習			
13						
14	移動の援助	1) 活動・運動のアセスメント 2) 移動・移送の実際 車椅子への移乗・移送 ストレッチャー(ベッド)への移乗・移送	講義			
15			演習			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 医学書院 看護技術プラクティス 学研 資料					
参考資料	ナーシングチャンネル 基礎看護・成人看護					
成績評価	講義、演習、参加度、および終講時学科試験の総合評価					

シラバス 番号	42	科目名	臨床看護総論		科目の 区分	専門分野
履修年次	1年次後期		単位数	2	時間数	60
担当講師	非常勤講師5名 専任教師2名					
授業概要	学んだ知識・技術を統合し、応用するプロセスを学ぶ。 基本的な問題解決過程の習得を目指す。 1年次の統合技術演習として位置づける。					
授業目標	1.健康障害の経過における患者やその家族の特徴と看護について理解する。 2.事例を通して、看護過程を用いて看護展開を行うことができる。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	臨床看護とは	臨床とは 臨床看護とは	講義
2 3	健康状態の経過に基づく看護	1.急性期における看護 2.慢性期における看護 3.回復期における看護 4.終末期における看護	講義 グループワーク
4	主要な症状を示す対象者への看護	1.安楽に関連する症状を示す対象者への看護	講義
5		2.緩和医療	講義
6 7 8 9	麻酔法	1.麻酔 ・術前管理、術中管理、術後管理 ・全身麻酔、局所麻酔(脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔) 2.呼吸管理(酸素療法、人工換気) 3.体液・栄養管理(体液管理と輸液、栄養管理) 4.疼痛管理 ・術後疼痛の基礎 ・術後疼痛が生体に及ぼす影響とその関係 ・術後鎮痛法の適応と利点・欠点 5.救急医療(ショック、救急処置)	講義
10 11	手術療法を必要とする患者の看護	1.術前看護	講義
12 13		2.術中看護	講義・演習
14 15 16 17		3.術後看護 ①手術後の回復を促進するための看護 ②術後合併症の発生機序と予防・対応 ③術後 回復に向けた援助	講義
18 19 20 21 22		問題解決過程とは 看護過程のステップ 情報収集、情報の整理 分析、アセスメント 全体像の描写:思考の過程、構造図 看護問題抽出、看護目標、計画立案 実施、評価	講義・演習

回	項目	内容	方法
23 24	対象を理解しよう	事例(データベース)の情報から患者を理解・イメージ化し、看護を考える 事例① 胃癌 胃切除術後 事例② 変形性股関節症術後 事例③ 前立腺癌 術後 事例④ 脳梗塞 回復期 事例⑤ 肺癌 化学療法・放射線療法中 事例⑥ 多発性骨髄腫 化学療法中 事例⑦ 慢性心不全の急性増悪 (事例は変更する可能性あり)	演習
25	情報を整理しよう	各自で考えてきた情報の整理・思考の過程を持ち寄り、グループワークで深める。援助計画まで、立案する。	個人ワーク グループワーク
26	援助計画を立案してみよう		
27 28	考えた援助を実施してみよう	事例①～⑧の模擬患者演習 観察・コミュニケーション	演習
29 30		事例①～⑧の患者に対し、考えた援助を実施する。 実施した結果どうであったか、考える。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 配布資料		
成績評価	終講時学科試験、課題レポート 個人で行う演習課題と取り組みの態度、グループワーク参加度、授業態度、出席状態など		

シラバス 番号	43	科目名	診療の補助技術		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師2名					
授業概要	看護師は、保健師助産師看護師法第5条に示されている「診療の補助業務」として、その行為に対し法的根拠を与えられている。近代、医療が高度化し、医療業務はより複雑化、繁雑化している。そのような中、医療者には医療事故防止対策の強化が強く求められている。医療行為、特に治療・処置には危険が伴うこと、また技術がより進歩することでリスクが高くなることは事実である。看護師が、診療行為に伴う法的立場をふまえて医師の診療の補助を行っていることを認識し、患者が安全・安楽に診療が受けられるように援助する技術の基本と倫理的な態度について学ぶ。					
授業目標	1. 与薬について、その目的・用途・方法を理解する。 2. 与薬のための法的根拠を述べることができる。 3. 与薬を受ける患者への看護援助技術に必要な知識・技術・態度を習得する。 4. 与薬に関わる安全管理のあり方について述べるができる。					

#### 授業計画

回	項目	内容	方法			
1	診療の補助とは 診療の過程	1) 医療を取り巻く環境と医療者に求められていること 2) 診察における看護の役割 診察に過程と診察時の援助	講義			
2 3	各種与薬法の 手順と看護 薬物療法にお ける看護師の 質の保証と安 全管理	1) 各種与薬法 ①経口与薬法 ②口腔内与薬法 ③直腸内与薬法 ④点眼法 ⑤点鼻法 ⑥点耳法 ⑦吸入法 ⑧塗布法 ⑨貼付法 2) 感染予防 3) リスクマネジメント	グループワーク			
4	注射法とは	1) 注射法とは 2) 注射法で使用する物品 3) 注射法の種類と特徴 4) 注射法の合併症	講義			
5	血管外注射	1) 血管外注射 (皮下注射、皮内注射、筋肉内注射)	講義			
6	静脈内注射	1) 静脈内注射 2) 静脈路確保	講義			
7	採血	1) 採血	講義			
8	輸液療法	1) 輸液管理 2) 輸液ポンプ、シリンジポンプ	講義			
9 10	注射の実際	1) 薬剤の準備 2) 皮下注射、筋肉内注射 (注射の準備、注射部位の選定、実施、後片付け)	演習			
11 12	静脈血採血の 実際	1) 採血 (採血の準備、採血部位の選定、実施、後片付け)	演習			
13 14 15	静脈路確保、 輸液管理の 実際	1) 静脈路確保 2) 輸液管理 3) 輸液ポンプ、シリンジポンプ	演習			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 医学書院 看護技術プラクティス 学研					
参考資料	ナーシングチャンネル 基礎看護・医療安全					
成績評価	終講時学科試験					

シラバス 番号	44	科目名	看護の実践哲学	科目の 区分	専門分野
履修年次	3年次前期	単位数	3	時間数	45
担当講師	専任教師				
授業概要	実習での体験を踏まえて、看護の本質について思考し、自己の人間観、看護観、世界観を確認する。人道と人権・看護・ケアリングの本質は共通することを身をもって実感し、赤十字看護師の使命と役割を理解する。				
授業目標	実習での体験を踏まえて、看護の本質について思考し、自己の人間観、看護観、世界観を確認できる。人道と人権・看護・ケアリングの本質は共通することを身をもって実感し、赤十字看護師の使命と役割を理解する。				

授業計画

回	項目	内容	方法
1	ガイダンス 「知っている」とは 1) 認識の構造	シラバスの説明 「看護の実践哲学」学び方 「知っている」とはということかを認識論を用いて学習する	講義 演習
2	体験から学ぶ (その1)	臨地実習でそれぞれが体験した「ヒヤリハット事例」を共有し、看護師として備える知識・技術・態度を考える 実習での体験を踏まえて「看護の本質」について考える	事例検討 4月
3	体験から学ぶ (その2)	臨地実習体験を各グループ2名発表し、実習での体験を踏まえて「看護の本質」について考える * 事例検討会参加後に、「事例検討会での学び」レポート提出	事例検討 4月
4	ケーススタディについて	ケーススタディについて 臨地実習の体験を、ケーススタディにまとめることによって、リフレクションする方法を学ぶ	講義 演習
5	ケーススタディについて	2年生後期で学習したクリティークの方法を用いて前年度のケーススタディをグループごとにクリティークを実施して自分たちが取り組む方向性を認識する 保健週間にケーススタディをまとめる(2月あるいは4月の事例)	講義 演習
6	体験から学ぶ (その3)	臨地実習でそれぞれが体験した「ヒヤリハット事例」を共有し、看護師として備える知識・技術・態度を考える 前回検討した事例の共有を活かしての関わり事例紹介により、実習での体験を踏まえて「看護の本質とレジリエンス」について考える	事例検討 5月
7	体験から学ぶ (その4)	臨地実習体験をテーマに沿って各グループ2名発表し、各テーマ、「看護の本質」について考える 例: 自立・退院に向けた看護・発達段階・周術期の患者の看護など * 事例検討会参加後に、「事例検討会での学び」レポート提出	事例検討 5月
8	体験リフレクション (その1)	臨地実習の体験を、グループでリフレクションし体験を共有しながら、ケーススタディをまとめる	講義 演習
9	体験リフレクション (その2)		講義 演習
10	「看護倫理」について	臨地実習体験事例を用いて、「看護倫理」について学習する 「実習で体験したもやもや事例」を共有して要因と対策を共有する	講義 演習
11	「看護倫理」について	「4ステップモデル」を理解し、グループワークで体験する	講義 演習
12	「看護倫理」について	看護倫理グループワーク発表	講義 演習
13	ジェンダーと看護	「ジェンダー」について、グループで学ぶ	講義 演習

回	項目	内容	方法
14	現在の医療の動向について	「特定行為に係る看護師の研修制度」等について、グループで学ぶ	講義 演習
15	求められる看護師となるために	看護師としての責務を果たし続けるために必要な能力と看護実践 職業人としての責務 社会で働くために必要な能力	講義 演習
16	体験から学ぶ (その5)	臨地実習でそれぞれが体験した「ヒヤリハット事例」を共有し、看護師として備える知識・技術・態度を考える 前回検討した事例の共有を活かしての関わり事例紹介により、実習での体験を踏まえて「看護の本質と安心・安全の実現」について考える	事例検討 7月
17	体験から学ぶ (その6)	臨地実習体験をテーマに沿って各グループ2名発表し、各テーマ、「看護の本質」について考える 例:自立・退院に向けた看護・発達段階・周術期の患者の看護など *事例検討会参加後に、「事例検討会での学び」レポート提出	事例検討 7月
18	体験リフレクション (その3)	ケーススタディを発表する *ケーススタディの発表を聞き、「自己評価」「他者評価」実施する	演習(発表) 月 日
19			
20			
21			
22	体験リフレクション (その4)	ケーススタディを評価する *評価表に沿って評価した内容をもとに各自ケーススタディをリフレクションし、自己の課題を明確にする *「ケーススタディでの学び」をレポート提出	演習(発表) 講義(まとめ)
23			
テキスト	系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論 別巻 看護研究		
参考教材	関西看護学生看護研究大会冊子 看護者の倫理綱領 事前課題:ナースングチャンネル「生命倫理と看護倫理の基礎」		
成績評価	課題レポート ケーススタディ 授業・演習への参加度		

シラバス 番号	45	科目名	EBNの実践		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師					
授業概要	「EBNとは」 研究成果と研究手法 文献critiqueの方法を知り、実際に実施する 研究計画書を実際に作成して発表する互いにcritiqueを体験する中で研究における倫理について理解し、研究者の行うべき事柄を理解する					
授業目標	1.Evidence-Based Nursing (EBN) の考え方が出現してきた背景とその意義について理解する。 2.Evidenceの使い方について理解する。 3. Evidenceを使う際に必要な文献critiqueの方法について理解する。 4.Evidenceの作り方について理解する。 5. Evidenceを作るためのプロセス(研究計画の立案、データ収集、分析評価、論文作成)について理解する。 6.研究における倫理について理解し、研究者の行うべきことがらを理解する。					

#### 授業計画

回	項目	内容	方法
1	EBN概説	1)EBNの考え方が出現してきた背景とその意義 2)Evidenceの水準 3)EBNの手順	講義 グループワーク
2	Evidenceの作り方	1)Evidenceを作るための手法(量的・質的・ミックス法) 2)研究と倫理	発表
3	研究手法	研究成果と研究手法	講義 演習
4	Evidenceの使い方	1)「Evidence」を作るとは 2) 文献検索(医中誌、MEDLINE)、文献収集方法	PCを用いた演習
5	文献critique	1) 文献critiqueとは 2) 文献critiqueの方法 3) 文献critiqueの実際	既存の文献を 用いて
6	研究計画書について	1) 研究疑問から研究課題(テーマの絞り込み) 2) 研究方法の選択 3) 研究計画書の例	講義
7	研究計画書の作成	5人1組全8グループに分かれて実施	グループワーク
8			
9			
10			
11			
12	研究計画書の発表と	全8グループの発表と他グループからのcritique	発表 critique
13	critique		
14			
15	まとめ	テキストをもとに	講義
テキスト	オリジナルテキスト		
成績評価	グループワークへの参加度ならびに自己評価をもとに評価する。		

シラバス 番号	64	科目名	在宅看護論の概論		科目の 区分	統合分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師3名 専任教師1名					
授業概要	在宅看護の特徴を学ぶ。 住み慣れた生活の場において看護を受ける療養者とその家族を理解する。 在宅療養者とその家族の権利擁護や生活を支える制度について学ぶ。					
授業目標	1.在宅看護の提供される場の広がりから将来の方向性やその目的を考察する 2.住み慣れた地域の生活の場において看護を受ける療養者とその家族を理解する 3.在宅看護の対象者の住まい方と健康な生活との関連を理解する 4.事例を通して多職種と連携した地域での療養のあり方を創造的に検討しイメージする 5.看護過程の展開ポイントを理解し展開方法について学ぶ 6.在宅療養者とその家族の権利擁護や生活を支える制度について学ぶ					

授業計画

回	項目	内容	方法
1 4.12	序章:地域のなかでの暮らしと健康・看護 第1章:人々の暮らしと地域・在宅看護	序章:地域のなかでの暮らしと健康・看護 第1章:人々の暮らしと地域・在宅看護 P25～演習	講義 演習
2 4.19		P25～演習「暮らしを理解する」発表 在宅看護に求められる役割	講義 演習
3 4.25	第2章:暮らしの基盤としての地域の理解	第2章:暮らしの基盤としての地域の理解 p51～演習	講義 演習
4 5.11	在宅場面での倫理事例	p51～演習「地域を理解する」発表 在宅場面での倫理事例 GW 看護者の倫理綱領の視点・倫理的4分割法で分析	演習 講義
5 5.27		在宅場面での倫理事例 発表 療養者と家族の権利を守るためには	演習 講義
6 5.10	第6章:地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	第6章:介護保険制度 p164～ 介護保険について	講義
7 5.17	第6章:ケアマネジメントと社会資源の活用	ケアマネジメントと社会資源の活用 p197～ 在宅ケアにおける関係機関・関係職種の連携・協働	講義 演習
8 6.21	1)ケアマネジメントの実際	地域包括ケアシステムと在宅ケア ケアプラン作成	
9 5.24	第3章:地域・在宅看護の対象	対象者の特徴 p58～ 家族の理解 p75～ 家族のとらえかたと看護師のかかわり 家族のアセスメント 家族への支援 地域システムの視点から家族を支える 演習「家族を理解する」	講義 演習
10 5.31	第4章:地域における暮らしを支える看護	暮らしを支える看護 p104～ 環境を整える看護 看護の対象と提供方法 p110～ ライフステージに応じた看護 p177～	講義 事例を通して
11 6.28	第6章 訪問看護制度の創設と発展経緯	訪問看護制度 p183～ 関連する法令 訪問看護の制度 訪問看護サービスの提供 ケアマネジメントと社会資源の活用 地域における多職種連携	講義 事例を通して

12	第4章 暮らしにおけるリスクの理解 7.5 災害対策	暮らしにおけるリスクの理解・種類 安全に暮らし続けるための援助 災害への事前の備え・災害時の避難 災害対策における在宅看護	講義 事例を通して
13	第5章:在宅看護実践の場と連携 7.19	在宅看護における看護実践の場 在宅看護における多職種連携 看護支援専門員との連携 多職種連携からのネットワークづくり	講義 事例を通して
14	第6章 8.30 地域保健にかかわる法制度 1) 障害者総合支援法	地域保健にかかわる法制度 p200～ 高齢者に関する法制度 p202～	講義
15	9.6 2) 難病法 3) 医療介護総合確保推進法 4) おもな公費負担医療	障害者・難病に関する法制度 p204～ 公費負担医療に関する法制度 p207 権利保障に関連する制度 p208～	講義
<p>予習・復習用 ナーシングチャンネル「映像で感じ、考える、これからの在宅看護(全5巻)」 ※保健週間明けまでに視聴し、印象に残った内容について要約と感想をレポート提出(1巻あたり200～400字程度で)</p>			
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論① 医学書院		
成績評価	終講時学科試験 受講態度 演習への参加度 提出物の内容		

シラバス 番号	47	科目名	地域・在宅における健康生活支援		科目の 区分	専門分野
履修年次	3年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	赤十字健康生活支援講習指導員					
授業概要	在宅療養者と家族の生活や価値観を尊重した上で、生活を支援することを学ぶ。 在宅療養者と家族の生活行動についてアセスメントする能力を身につけ、自立を目指した援助が出来る 基礎的能力を身につける。					
授業目標	1.高齢者の健康と安全について理解する。 2.地域における支援活動について理解する。 3.日常生活における介護を学び、実践することができる。					

授業計画

回	項目	内容	方法		
1	赤十字健康生活 支援講習	在宅における生活支援とは 高齢者の健康と安全 健康な高齢者をめざして	講義 演習		
2		高齢期の理解 高齢者に起こりやすい事故の予防と手当、急病への対応			
3		地域における支援活動 支援活動について			
4		地域における高齢者の理解 地域包括ケアシステム			
5		支援活動にあたって ともに楽しいひとときを			
6		外出、散歩に誘いましょう 地域を支えるネットワーク			
7		日常生活における介護 介護にあたって 地域包括支援センターの業務			
8		居室の環境 移動 車椅子への移動動作			
9		食事 排泄 着替え 清潔 認知症高齢者への対応			
10		人生のエンディングを考える 介護者の健康管理 癒しのハンドケア			
11	事例で考えてみ よう	脳卒中後遺症のある患者 安全な環境とは 安楽な身体の清潔の援助とは 安全な移動方法とは 食事について	グルー プワ ーク 事 例 で 考 え る 演 習		
12	訪問看護に行こ う	実際の援助場面を設定し、演習をする どのような援助が必要か考えてみよう。 どのような物品が必要か考えてみよう。 援助を行ってみよう。			
13					
14	まとめ	まとめ 発表	グルー プワ ーク 発 表		
15					
テキスト	赤十字健康生活支援講習の教本 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院				
成績評価	終講時学科試験 講義・演習・グループワークへの参加				

シラバス 番号	48	科目名	地域での生活を支える看護技術	科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次前期	単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師2名				
授業概要	在宅に必要な生活を整える技術について学ぶ。 医学的管理を必要とする看護技術について学ぶ。				
授業目標	1.在宅での食の援助について理解する。 2.在宅での排泄の援助について理解する。 3.在宅での呼吸の援助について理解する。 4.在宅を支える災害対策について理解する。 5.在宅療養を支える看護技術について理解する。				

#### 授業計画

回	項目	内容	方法
1	在宅看護の特徴	看護師のアセスメント能力	講義
2	食の援助	「食べる」ことに関するアセスメント	
3	経口摂取できない 場合の栄養摂取に ついて	経管栄養法 PEG 在宅中心静脈栄養法(HPN)について	講義
4		経管栄養法 PEG 在宅中心静脈栄養法(HPN)について	演習
5・6		経管栄養法、栄養剤 講義・演習	講義・演習
7	排泄の援助	排泄の生理 摘便	講義
8		摘便の方法	演習
9		透析療法時の看護 血液透析・腹膜透析の原理	講義
10	呼吸の援助	呼吸のアセスメント 口腔内・気管内吸引	講義
11		気管切開 気管カニューレ 吸引	演習
12		在宅人工呼吸療法(HMV)について	講義・演習
13		在宅酸素療法(HOT)	講義・演習
14	在宅を支える災害 対策	在宅療養における災害対策	グループワーク
15	療養を支える看護 技術とは	意義と目的 まとめ	講義
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 系統看護学講座 統合分野 地域・在宅看護論① 系統看護学講座 統合分野 地域・在宅看護論② ナーシングチャンネル 基礎看護		
成績評価	終講時学科試験		

シラバス 番号	49	科目名	地域での生活を支える看護実践	科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次後期	単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師1名 専任教師2名				
授業概要	地域・在宅看護論として、「地域の生活を知る」、「地域の看護を知る」、「地域・在宅看護論の概論」、「地域での生活を支える看護技術」、「地域・在宅における健康生活支援」の科目を通して、地域における看護の知識と技術を習得している。本科目では、地域で生活するALS療養者の療養先に訪問し看護援助を展開するロールプレイのシナリオ作成、技術演習、発表を通して療養者や家族、そしてサービス提供者の立場を模擬体験する。地域での自助、互助、共助のあり方について考え、今後の地域での生活を支える看護実践を展望したうえで領域別実習を展開し、地域・在宅看護論実習に備える。				
授業目標	1.神経難病であるALS療養者の地域での生活状況を把握する(生活の場が多様化されていることを認識する) 2.ALS療養者のニーズを把握し、状況に応じた看護援助をシナリオを作成して展開する 3.地域で生活を継続させてい頼ぐために必要なサービスを知り、活用する 4.訪問にに展開する看護技術の習得を図る 5.ロールプレイを通して、自己・他者評価によるリフレクションにより学びを深める。				

授業計画

回	項目	内容	方法
1	地域・在宅看護 の取組 訪問看護の実際	シラバス確認 地域包括ケアシステムにおけるセルフマネジメント力の向上と ALSについての理解を深めるために 事前課題 ・映画を鑑賞しての感想・看護師としての支援方法を想起 ・ALSに関連した記事・ブログを視聴内容の紹介・感想 本授業におけるのグループワークの展開について	講義 先駆的事业 紹介 演習 発表
2	ALSについて	難病とは・ALSについて理解を深める 訪問看護の実際について ホームホスピスの実際について ・ALSに関連した記事・ブログを視聴内容の紹介・感想 ・ALSの病態・治療・看護・在宅療養を継続していく ために整えていくこと	講義 演習
3	事例で考える	事例に基づき、訪問看護のシナリオを作成する 1)病態を理解し、事例の構造図を作成する 2)プロフィール作成 3)訪問時の状況設定を作成する 4)提供する看護援助を選択する	演習
4	事例で考える	5)看護計画に沿った訪問看護のシナリオを作成し実施する ・呼吸器管理、気管内吸引、口腔ケア、経腸栄養 ・食事の援助、コミュニケーション、外出時の援助 ・排泄の援助、清潔の援助(入浴・熱布浴・手浴・足浴など) ・家族の援助、レスパイトケア、多職種との連携	演習
5	訪問看護の実際	実際の訪問看護を想定してロールプレイを実施する 訪問目的に沿った訪問看護の実施	ロールプレイ 裏面に続く 1-4G

6	訪問看護の実践	実際の訪問看護を想定してロールプレイを実施する 訪問目的に沿った訪問看護の実施 評価項目と訪問看護として望ましい点・工夫する点も 入力する。	ロールプレイ 5-8G 評価表に沿って 自己・他者評価
7	振り返り	自己評価・他者評価からの学び 演習を通して学んだ訪問看護師として大切にしていくこと	講義・意見交換
8	まとめ	演習を通して学んだこと・振り返り・意見交換 評価項目と訪問看護として望ましい点・工夫する点を伝える	
	提出物	事後課題 各グループの構造図・シナリオ提出 課題レポート「訪問看護演習を通して学んだこと」	月 日提出 月 日提出
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論② 医学書院 DVD「在宅看護ケーススタディ(全3巻)」		
成績評価	終講時学科試験 受講態度 演習への参加度 提出物の内容		

シラバス 番号	50	科目名	地域の生活を知る	科目の 区分	専門分野
履修年次	1年次前期	単位数	1	時間数	15
担当講師	専任教師2名				
授業概要	地域で暮らす人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援するために、自分の暮らす地域を知り、地域・在宅看護論の対象を理解する。				
授業目標	1.暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。 2.自分の地域の暮らしを知る。 3.地域・在宅看護論の対象を理解する。				
授業計画					
回	項目	内容			方法
1	暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。	暮らすということはどういうことか			講義
2 3	自分の地域の暮らしを知る	自分が住んでいる地域の特徴について知る 自分の地域で暮らす健康な人の生活や健康管理について知る			身近な人にインタビューをした内容を元にグループワーク
4 5 6 7	地域・在宅看護論の対象を理解する	地域・在宅看護論の対象を知る * 地域に暮らしている人々にインタビューをする ・どのような人々がどのような暮らしを送っているのか ・どのようなライフステージがあるのか ・健康課題はあるのか ・どのように人と人とが支え合って生きているか ・地域の生活環境がどのように健康に影響を与えているか  上記の内容を知ることができるようにインタビューの内容を考え、実施する。			学生自身で訪問の交渉をする
8		インタビューした内容をまとめて、発表する			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院				
成績評価	グループワークの参加度 レポート				

シラバス 番号	51	科目名	地域の看護を知る		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	15
担当講師	専任教師2名					
授業概要	地域で暮らす人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援するために、自分の暮らす地域を知り、地域・在宅看護論の対象を理解する。 地域包括ケアシステムの意義と概念を学ぶ。					
授業目標	地域で療養しながら暮らす人々を知る。 看護が提供される多様な場を理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1	地域包括ケアシステムの意義と概念について	地域包括ケアについて 地域包括ケアシステムについて 自助・互助・共助・公助	講義			
2	地域で療養しながら暮らす人々を知る	看護が提供される多様な場に訪問し、看護の実際、看護の役割を調べる	演習			
3		地域での看護の役割についても考える				
4		診療所				
5		訪問看護				
6		公衆衛生看護 保健師(行政・産業・学校・養護教諭)				
7		小規模多機能 地域包括支援センター 介護施設、老健施設など 訪問し、インタビューした後、整理する				
8		訪問して、まとめた内容を発表する。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院					
成績評価	グループワークの参加度 レポート					

シラバス番号	52	科目名	成人看護学の概論	科目の区分	専門分野
履修年次	1年次前期	単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師				
授業概要	成人期にある人の特徴並びに成人各期の特性を理解し、健康問題・健康管理や疾病予防、健康の保持増進における看護を学ぶ				
授業目標	1. 成人期にある人の特徴並びに成人各期の特性について理解する 2. 成人期にある人の健康障害が個人や家族、社会に及ぼす影響について理解する 3. 成人各期の健康問題を知り、健康管理や疾病予防、健康の保持増進における看護について理解する 4. 成人保健の動向と対策、保健活動について理解する 5. 成人看護学に活用される理論について理解する				

授業計画

回	項目	内容	方法		
1	大人であるということ	<ul style="list-style-type: none"> <li>大人になること</li> <li>大人であること</li> <li>発達段階、発達課題</li> </ul>	講義 GW		
2	各段階の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>エリクソンの発達理論</li> <li>青年期 身体の発達、心理・社会的発達 発達の統合的な視点としてのセクシュアリティ</li> </ul>	講義		
3	各段階の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>壮年期 身体の発達、心理・社会的発達 発達の統合的な視点としてのセクシュアリティ</li> <li>向老期の特徴 身体的、心理・社会的発達 老年期への移行</li> </ul>	講義		
4	生活行動がもたらす健康問題とその予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労、労働形態</li> <li>飲酒、喫煙</li> <li>運動不足、肥満</li> </ul>	講義		
5		<ul style="list-style-type: none"> <li>薬物乱用防止</li> </ul>	講話		
6	ストレスと健康生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストレス関連疾患の予防と対策</li> <li>ストレスとは</li> <li>ストレスとその対処</li> <li>ストレスマネジメントと健康生活</li> </ul>	講義		
7・8	危機にある人々への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機とは</li> <li>危機介入</li> <li>フインクの危機モデルを活用した危機介入</li> </ul>	講義 闘病記		
9・10	生活環境衛生と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症を持つ人の身体的、心理・社会的特徴</li> <li>性に関する健康障害の予防および対応</li> <li>事例で考える</li> </ul>	講義 映画鑑賞		
11	障害のある人の生活を支援する	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害とは</li> <li>聴覚障害のある人の生活</li> <li>聴覚障害のある人のコミュニケーション</li> </ul>	講義 手話		
12～14	人生の最期のときを支える看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達課題における死の理解</li> <li>死の受容過程 E・キューブラー・ロス</li> <li>人間としての死</li> <li>死と共に生きること</li> <li>人生の最期のときを支える看護師の役割と機能</li> </ul>	講義 闘病記		
15		<ul style="list-style-type: none"> <li>遷延性意識障害とは</li> <li>遷延性意識障害の人の家族</li> </ul>	闘病記		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症 医学書院				
参考資料	ナーシングチャンネル 成人看護				
成績評価	レポート(10点)、終講時試験				

シラバス 番号	53	科目名	健康危機状況		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名 専任教師1名					
授業概要	成人が極めて深刻なセルフケア困難に陥っているときの看護を学ぶ					
授業目標	1. 健康危機状況にある成人を理解する 2. 健康危機状況と看護の特徴を理解する 3. 家族および重要他者の不安や負担への対応を学ぶ 4. クリティカルな患者の病態の理解と看護を学ぶ					

#### 授業計画

回	項目	内容	方法			
1 2	健康危機状況 にある成人の理 解	1)成人にとっての健康とは 2)成人にとっての危機とは ・発達の危機 ・状況的危機 ・危機モデルを活用した危機介入	講義 グループワー ク			
3	成人に生じるセ ルフケア不足	1) 五つのセルフケア不足 2) 苦痛の緩和 3) 身体機能悪化の予防と早期発見 4) 生活行動変更への支援 5) 心理的・精神的混乱への支援	講義			
4 5 6	代表的な危機 状況と看護の 特徴	1) 術前アセスメント 2) 手術室における看護の展開 入室前、入室時の看護 麻酔導入時の看護 脊椎麻酔時の看護 3) 心不全の事例でのアセスメント	講義 演習			
7		4) 輸血療法	講義			
8	家族、重要他 者の不安や負 担への対応	1) 成人の発達段階に応じた家族または重要他者との関係性 2) 家族についてのアセスメント方法 3) 患者の健康状況とキーパーソンおよびその他の家族の相互作用	講義 グループワー ク			
9 10 11 12 13 14 15	健康危機状況 にある患者の看 護	1) 手術侵襲について 2) 術前アセスメントと看護 3) 術後の看護 人工呼吸器装着患者の看護 4) ICU・CCU入室患者の看護 食道癌の手術前後の看護 緊急入院時の看護 急性心筋梗塞	講義 事例演習			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院					
参考資料	ナーシングチャンネル 成人看護					
成績評価	講義終了後に試験					

シラバス 番号	54	科目名	セルフケアの再構築		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次後期	単位数	1		時間数	30
担当講師	非常勤講師4名					
授業概要	急激な健康破綻に陥った人の看護を学ぶ					
授業目標	1.急激な健康破綻に陥った人の状況と心身の苦痛について理解する。 2.急激な健康破綻に陥った人の看護の特徴を理解する。 3.患者や家族の苦悩、その特徴を理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1 2	1.健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	健康の急激な破綻 生命の危機状態 急性期にある人の特徴 急性期にある人の看護 危機にある人々への支援 合併症の予防 健康破綻から回復する看護 家族の看護 療養の場を移行する人々への看護技術	講義
3	2.治療過程にある患者への看護技術	その人らしい日常生活再構築のための看護技術 大腸癌の事例	講義
4 5 6	3.急性期の患者の看護	クモ膜下出血の患者の看護	講義 演習
7 8		脊髄を損傷した人の看護	講義 演習
9 10	4.療養の場を移行する人々への看護技術	療養の場の移行支援とはどのような活動か 療養の場の移行支援が必要とされる理由 療養の場の移行支援の具体的方法 退院後の支援	講義
11 12 13 14 15	5.障がいがある人の生活とリハビリテーション	1)リハビリテーション概論 2)運動器系の障害とリハビリテーション看護 3)中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 (1)脳血管障害 (2)脊椎損傷 4)呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション	講義 演習
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学①成人看護学総論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳・神経 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3]社会保障・社会福祉 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院		
成績評価	終講時学科試験 参加度		

シラバス 番号	55	科目名	セルフマネジメント	科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次前期	単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名 専任教師1名				
授業概要	慢性的な病を持った人がシンプトン・マネジメント(自分の症状と生活のなかで折り合いをつけて付き合っていく方法)とサイン・マネジメント(客観的に測定、観察できるデータや徴候の意味をアセスメントし、対処する方法)を獲得していく過程の看護を学ぶ。				
授業目標	1. 慢性疾患患者のセルフケア・セルフマネジメントの必要性について理解し、その支援方法を学ぶ。 2. 慢性疾患患者に対する災害看護について学ぶ。				

授業計画

回	項目	内容	方法	
1	慢性病との共存を支える看護の実践	1)セルフケアとセルフマネジメント 2)セルフマネジメントのための対象理解 3)成人教育学 (1)成人教育学(アンドラゴジー参照) (2)エンパワメントモデル (3)自己効力理論	講義	
2	看護におけるマネジメント ～セルフマネジメントの過程～	1)対象理解 2)援助方法 3)評価の仕方	講義	
3	疾患の理解と看護	1)糖尿病 (1)疾患の概要 (2)分類・診断基準	講義	
4		(3)検査、治療 食事療法・薬物療法・運動療法 自己血糖測定	講義	
5		(4)糖尿病の症状 (5)糖尿病の慢性合併症・急性合併症	講義	
6・7		(6)糖尿病患者の看護 (7)中途視覚障害者の看護	講義	
8		2)腎不全患者の看護	講義	
9		3)呼吸器疾患 (1)医療の動向と看護	講義	
10		(2)呼吸器疾患を持つ患者の特徴	講義	
11		4)呼吸不全の病態生理 (1)定義と診断基準 (2)発生機序と原因	講義	
12		5)慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者の経過と看護 (1)症状に対する看護 (2)治療・処置を受ける患者の看護	講義	
13		(3)急性増悪期・安定期の看護 (4)終末期の看護	講義	
14		6)呼吸不全の患者のセルフマネジメント事例	講義	
15		慢性疾患患者に対する災害看護	1)慢性疾患の特性と災害時の療養生活への影響 2)慢性疾患患者と災害時の脆弱性 3)災害時における慢性疾患患者と家族に対する看護	講義
テキスト		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 医学書院		
成績評価		終講時学科試験・参加度		

シラバス 番号	56	科目名	緩和ケア		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師3名					
授業概要	人間が存在し生きるという過程を、患者や家族のQOLという視点から捉え、死と向き合っている患者や家族が成し遂げる過程を支援する看護を学び、死後のケア、遺族への関わりについて理解する。また、苦しみに寄り添う医療者自身のケアについて理解する。					
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 緩和ケアの歴史と発展について学ぶ。</li> <li>2. 緩和ケアにおけるチームアプローチの意義について学ぶ。</li> <li>3. 緩和ケアにおけるコミュニケーションの種類や基本的なスキルについて学ぶ。</li> <li>4. 緩和ケアの臨床における意思決定支援について理解する。</li> <li>5. 身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛を理解し、アセスメント、ケアについて学ぶ。</li> <li>6. 小児・AYA世代・高齢者・様々な疾患における緩和ケアの広がりを学ぶ。</li> <li>7. 臨死期の概念とそのケアの目標を理解し、全人的苦痛の緩和、死亡前後や急変時のケアについて学ぶ。</li> <li>8. 緩和ケアにおける家族看護過程、グリーフと遺族ケアについて学ぶ。</li> <li>9. 医療者のストレス要因とそれによって引き起こされる状態を理解し、対処能力やケアについて理解する。</li> </ol>					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1	緩和ケアの現状と展望	1) 緩和ケアの歴史と理念 2) 全人的苦痛について事例検討 「若年乳がん終末期の患者」	講義			
2	緩和ケアにおける チームアプローチ	1) チームアプローチの意義 2) 事例「チームアプローチを考える」	講義			
3	緩和ケアにおける コミュニケーション	1) コミュニケーションの基礎知識 意義 スキルとプログラム 2) 事例「コミュニケーションを考える」	講義			
4	緩和ケアにおける 倫理的課題	1) 意思決定支援 アドバンス・ケア・プランニング 2) 臨床で直面する倫理的課題	講義			
5	全人的ケアの実際 身体的ケア①	1) 症状マネジメントと日常生活を支えるケア 疼痛	講義			
6	全人的ケアの実際 身体的ケア②	1) 症状マネジメントと日常生活を支えるケア 呼吸困難	講義			
7	全人的ケアの実際 身体的ケア③	1) 症状マネジメントと日常生活を支えるケア 消化器症状	講義			
8	全人的ケアの実際 心理的ケア	1) 心の反応 ストレス 2) 主な精神症状と対応 不安・抑うつ せん妄 認知症	講義			
9	全人的ケアの実際 社会的ケア	1) 療養者の暮らしの支援 2) 在宅への移行支援	講義			
	全人的ケアの実際 スピリチュアルケア	1) スピリチュアルペインについて 2) スピリチュアルペインのアセスメントとケア	講義			
10	緩和ケアの広がり	1) ライフサイクルによる広がり ・小児、AYA世代、高齢者	講義			
11	緩和ケアの広がり	1) さまざまな疾患のひろがり ・悪性腫瘍、心疾患、呼吸器疾患、神経難病 脳血管疾患、腎疾患	講義			
12	臨死期のケア	1) 臨死期の概念とケアの目標 2) 臨死期の全人的苦痛の緩和 3) 看取り期、死亡後のケア	講義			
13	家族のケア	1) 家族とは 家族ケアの方法 2) グリーフケアと遺族ケア	講義			
14 15	医療スタッフのケア	1) ストレスマネジメント 2) マインドフルネス ☆すべての回で事例を通して考える機会を作る	講義			
テキスト	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院					
成績評価	終講時学科試験・参加度					

シラバス 番号	57	科目名	がん看護		科目の区 分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師5名					
授業概要	がんとがん患者の特徴、治療についての知識を深め、患者にとって化学療法を行う意義を考えながら、安全安楽に治療が受けられるように、患者・家族を支援する看護を学ぶ。					
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 我が国におけるがんを取り巻く状況を理解する。</li> <li>2. がんの病態と臨床経過について理解する。</li> <li>3. がん患者の苦痛を理解し、それに対する支援やマネジメントの方法について学ぶ。</li> <li>4. 手術療法、薬物療法、放射線療法を組み合わせた集学的治療について理解する。</li> <li>5. がん治療に対する看護について学ぶ。</li> <li>6. 外来におけるがん患者の療養支援について学ぶ。</li> </ol>					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	1.がん医療の現在と看護 2.がんの病態と臨床経過	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) がんを取り巻く状況</li> <li>2) がんについて知る</li> <li>3) エビデンスに基づく看護実践</li> <li>1) がんの病態</li> <li>2) がん患者の臨床経過</li> </ol>	講義
2	3.がん患者の看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 苦痛に対するマネジメント</li> <li>2) 心理的サポート</li> <li>3) 症状マネジメント</li> </ol>	講義
3	3.がん患者の看護 4.がん治療に対する看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>4) 予防と早期発見</li> <li>1) 手術療法と集学的治療</li> <li>2) 放射線治療の看護</li> </ol>	講義
4	5.がん治療の場と看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 外来がん看護</li> <li>2) がん患者の療養支援</li> </ol>	講義
5	化学療法 1.がんと化学療法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 化学療法の適応・目的</li> <li>2) 化学療法と手術療法との関係</li> <li>3) 化学療法と放射線療法との関係</li> <li>4) 化学療法の効果・副作用・有効性</li> <li>5) 抗がん剤の作用機序</li> <li>6) 最近の化学療法のキーワード</li> <li>7) 外来化学療法室</li> </ol>	講義
6	2.化学療法看護を受ける患者への看護 3.抗がん剤の取り扱い	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 抗がん剤投与時に考慮すべき因子</li> <li>2) 抗がん剤治療のプロセス</li> <li>3) 抗がん剤の副作用のマネジメント</li> <li>4) 患者・家族への教育的支援</li> <li>5) 治療後の看護</li> <li>1) ケミカルハザード</li> </ol>	講義
7	乳がん患者のセルフマネジメント事例	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 疾患、分類、検査、診断</li> <li>2) 治療 化学療法、内分泌療法、手術療法、放射線療法</li> </ol>	講義
8		<ol style="list-style-type: none"> <li>3) 看護ケア</li> </ol>	講義

テキスト	系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 医学書院
成績評価	終講時学科試験・参加度

シラバス 番号	58	科目名	老年看護学の概論		科目の 区分	専門分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師					
授業概要	高齢者の特徴とその健康生活、加齢に伴う変化と生活適応を阻害する諸要因について理解する。 老年期の健康障害が個人や家族、社会に及ぼす影響、保健医療福祉について理解する。 老年看護のあり方について考察する。					
授業目標	1. ライフサイクルの中で老年期をとらえ、高齢者の特徴(身体的・精神的・社会的)とその健康生活を理解する。 2. 加齢に伴う変化と老年期にある人々の生活適応を阻害する諸要因について、身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。 3. 老年期の健康障害が個人や家族、社会に及ぼす影響について理解する。 4. 老年期に対する保健医療福祉の動向と対策(活動)について理解する。 5. 自分自身の老年観を言語化(客観視)し、洞察する。 6. 老年看護の実践の核となる看護倫理について考え、自己の倫理観を涵養する。 7. 老年期の生活の質を保障する老年看護のあり方について考察する。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	ライフサイクルから見た老年期	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の老年観とエイジズム</li> <li>「老人・高齢者」(老年期)の定義</li> <li>エイジング(aging)とサクセスフルエイジング</li> <li>「ある高齢患者の入院体験記」を読んでdiscussion</li> </ul>	講義
2	老年期の発達と成熟	<ul style="list-style-type: none"> <li>老年期の発達課題</li> <li>老年各期(前期高齢者・後期高齢者)の特徴</li> </ul>	祖父祖母へのインタビューの内容をもとにして
3	加齢に伴う変化①	<ul style="list-style-type: none"> <li>加齢に伴う変化の特徴</li> <li>身体的機能の変化 (内臓機能の変化、運動・体力の変化、感覚・知覚の変化)</li> <li>心理・精神的機能の変化</li> <li>人格と尊厳</li> <li>喪失体験</li> </ul>	
4	加齢に伴う変化②	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的機能の変化</li> <li>霊的变化</li> </ul>	
	高齢者の健康①	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康状態の多様性</li> <li>healthy-wellness</li> </ul>	
5	高齢者の健康② 高齢者の生活史	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の健康問題</li> <li>高齢者の生活史</li> <li>価値観の多様性</li> <li>生活習慣・生活様式の多様性</li> <li>QOL</li> </ul>	
	高齢者と家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者と家族のライフサイクル</li> <li>家族構成の変化</li> <li>家族形態の変遷</li> <li>高齢者と家族の人間関係</li> <li>老老介護</li> </ul>	
6 7	高齢者の人権擁護と老年看護における倫理的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権とは</li> <li>高齢者虐待(エイジズムとの関連)</li> <li>弱者の側面から見た高齢者と看護アドボケート(擁護者)の意義</li> <li>人権を尊重した看護活動の観点 <ul style="list-style-type: none"> <li>①擁護者としての看護の役割</li> <li>②高齢者と看護者による共同意思決定</li> <li>③医療サービスを受ける高齢者の満足感</li> </ul> </li> <li>高齢者虐待</li> </ul>	講義

回	項目	内容	方法
	高齢者と社会保障システム(保健医療福祉制度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の社会参加</li> <li>・高齢者のソーシャルサポート</li> <li>・高齢者サービスシステム</li> <li>・介護保険</li> <li>・老年看護活動の場の特徴と看護</li> </ul>	講義
8	福祉をあてることの是非(ディベート)	・福祉賛成派と福祉反対派に分かれてディベートを実施し、福祉をあてることの問題について理解を深めるとともに、老年看護のあり方について理解を深める	ディベート
9	身体拘束の是非(ディベート)	・身体拘束賛成派と身体拘束反対派に分かれてディベートを実施し、身体拘束の問題について理解を深めるとともに、老年看護のあり方について理解を深める	ディベート
10 11	高齢者の健康問題と介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビドラマ「恍惚の人」の鑑賞</li> <li>・「恍惚の人」を見て、老年看護のあり方についてdiscussion</li> <li>・老年看護のkeyword:「支える」</li> </ul>	DVD視聴 discussion
12 13	老年看護の実践とリフレクション	・「ユマニチュード」「パーソンセンタードケア」をもとにしたdiscussion	discussion
14 15	これからの老年看護まとめ	・これまでの講義で学習した内容を総合して、老年看護のあり方について考察する	discussion
テキスト	北川公子、他:系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学、医学書院 厚生統計協会:国民衛生の動向		
成績評価	終講時学科試験、ディベート内容、授業へのコミットメント等により総合的に評価		

シラバス 番号	59	科目名	高齢者のセルフケア支援		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師2名					
授業概要	高齢者の特徴とそれに伴う健康上の諸問題と動向を知り、対象に応じた看護を行う基礎的能力を養う。					
授業目標	1. 高齢者の特徴を理解する。 2. 高齢者看護の特性を理解する。 3. 高齢者のヘルスアセスメントの基本を習得できる。 4. 高齢者のリスクマネジメントの基本を理解する。 5. 高齢者の生活機能を整える看護を学ぶ。 6. 高齢者のエンドオブライフケアを考える。 7. 高齢者のヘルスプロモーションを考える。					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1	老いるということ	高齢者体験	演習 課題レポート			
2	老いるということ	老年看護の理念 生活志向の看護 生理的・精神的・社会的ニーズを満たす生活への援助 高齢者の特性からみた高齢者看護	講義			
3	高齢者のヘルスアセスメント	ヘルスアセスメントの基本 ヘルスアセスメントの枠組み 高齢者総合機能評価(CGA)	講義			
4	高齢者のヘルスアセスメント	身体に加齢変化とアセスメント ①皮膚 ②視聴覚 ③循環系 ④呼吸器系 ⑤消化器系 ⑥ホルモンの分泌 ⑦泌尿生殖器 ⑧運動系	講義			
5	高齢者のリスクマネジメント	高齢者のリスクマネジメント 高齢者と医療安全、救命救急 高齢者と災害	講義			
6	高齢者の生活機能を整える看護	食事・食生活	講義			
7	高齢者の生活機能を整える看護	日常生活を支える基本的活動	講義 グループワーク			
8		排泄、清潔・入浴、生活リズム				
9		コミュニケーション				
10						
11	高齢者の生活機能を整える看護	住まい 経済状況 社会状況	講義			
12	高齢者の生活機能を整える看護	排泄ケアの特徴 おむつの歴史、おむつがもたらす弊害 おむつ交換	講義 演習			
13	エンドオブライフケア	エンドオブライフケアの概念 「生きる」ことを支えるケア 意思決定への支援 末期段階に求められる援助	講義			
14	生活・療養の場における看護	高齢者とヘルスプロモーション	講義			
15	高齢者のヘルスプロモーション	高齢者とレクリエーション	演習			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院					
成績評価	参加度、終講時学科試験					

シラバス 番号	60	科目名	健康障害を持つ高齢者の看護	科目の 区分	専門分野	
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名 専任教師2名					
授業概要	老年期にある健康障害の特徴、診断治療過程における看護の基礎について学ぶ。					
授業目標	1. 高齢者に多い疾患・障害に対する看護を学ぶ。 2. 認知機能障害のある高齢者の看護を学ぶ。 3. 治療を受ける高齢者の看護を学ぶ。 4. 高齢者を介護する家族への看護を学ぶ。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	疾患・障害に対する 看護	老年症候群 脱水・浮腫	講義
2		痛み しびれ	
3		転倒・骨折、骨粗鬆症 ロコモティブシンドローム・サルコペニア・フレイル	
4		パーキンソン病、パーキンソン症候群	
5		瘙癢(かゆみ) 老人性皮膚瘙癢症、疥癬	
6		高齢者に多い主な感染症 肺炎・誤嚥性肺炎、感染性胃腸炎など 高齢者とがん	
7	認知機能障害の ある高齢者の看護	うつ うつとは 高齢者のうつの背景と特徴、援助	講義
8		せん妄 せん妄とは 高齢者のせん妄の特徴と予防、援助	
9		認知症	
10 11		認知症の定義・症状 四大認知症とその看護 アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症、脳血管性認知症 認知症の診断、認知機能の評価	
12	薬物療法を受ける 高齢者の看護	加齢に伴う薬物動態の変化 高齢者に多い薬物有害事象・ポリファーマシー 薬物療法における援助・服薬管理	講義
13 14	入院治療を受ける 高齢者の看護	診察・検査・手術を受ける高齢者の看護 入院から退院までの支援 リハビリテーション	
15	高齢者を介護する 家族の看護	介護家族の生活と健康 家族への援助	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院		
参考資料	ナーシングチャンネル 老年看護		
成績評価	終講時学科試験		

シラバス 番号	61	科目名	老年看護の実践		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師2名					
授業概要	高齢者の身体的課題を精神的・心理的側面との関連性を明らかにしながら、看護に必要なアセスメント能力を養う。					
授業目標	1. 疾患や障害を持つ高齢者に対し、生活機能の視点から看護に必要なアセスメント能力を養う。 2. 医学的管理を必要とする看護技術について学ぶ。 3. 患者・家族の自己管理およびセルフケア支援の方法を学ぶ。					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1 2 3	褥瘡・スキンケアの看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の皮膚の特徴</li> <li>・スキンケア</li> <li>・スキンケア</li> <li>・褥瘡の発生機序、リスクアセスメント</li> <li>・褥瘡の分類、治療・創傷管理</li> <li>・ポジショニング</li> </ul>	講義			
4	排泄障害の看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄について</li> <li>・高齢者の排泄ケアの基本</li> <li>・排尿障害のアセスメントとケア</li> </ul>	講義			
5 6	排泄障害の看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排便障害のアセスメントとケア</li> </ul>	講義			
7	ストーマ造設患者の看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーマの分類 消化管ストーマ 尿路ストーマ</li> <li>・ストーマ造設時の看護 術前のアセスメント ストーマサイトマーキング ストーマ管理</li> </ul>	講義			
8	ストーマ造設患者の看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーマケア</li> </ul>	演習			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 皮膚 医学書院					
成績評価	参加度、終講時学科試験					

シラバス 番号	62	科目名	小児看護学の概論		科目の 区分	専門分野
履修年次	1年次 後期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師1名 専任教師1名					
授業概要	小児を取り巻く社会環境の変化、子どもの権利・人権について学び、看護の役割について学習する					
授業目標	1. 小児看護の対象としてのこどもを理解する 2. 小児看護を取り巻く環境、関連する諸統計を理解する 3. 小児医療や小児看護の変遷について理解する 4. 小児看護における倫理を理解する 5. 健康問題が子どもや家族に与える影響を理解することができる					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1 2 3 4	小児看護の特徴と理念	1) 小児看護の目ざすところ ・小児看護の対象 ・小児看護の目標と役割 2) 小児と家族の諸統計 ・わが国の人口構造 ・出生と家族 ・子どもの死亡 3) 小児看護の変遷 ・児童観、育児観、小児医療の変遷 ・現代の小児看護 4) 小児看護における倫理 ・子どもの権利 ・医療現場でおこりやすい問題点と看護 5) 小児看護の課題 ・疾病構造の変化と小児看護 ・社会変化と小児看護 ・小児看護の専門分化	DVD鑑賞 グループワーク 講義			
5 6	障害のある子どもと家族の看護	1) 障害のとらえ方 ・障害についての考え方 ・障害の原因、背景因子との相互作用 2) 障害のある子どもと家族の特徴 ・障害のある子どものニーズ ・障害のある子どもの家族のニーズ	講義 グループワーク			
7		3) 障害のある子どもと家族への社会的支援				
8		・障害のある子どもと家族への援助の基本的な考え方 ・チームアプローチ				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院					
参考資料	ナーシングチャンネル 小児看護					
成績評価	終講時学科試験・レポート・参加度					

シラバス 番号	63	科目名	小児の成長発達と看護		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師					
授業概要	子どもの成長発達健康増進のための子どもと家族への看護実践を学ぶ。					
授業目標	1.小児各期(乳児・幼児・学童期・思春期)の成長や発達の特徴を理解する 2.小児各期(乳児・幼児・学童期・思春期)における特徴的な生活援助の方法を理解する 3.小児看護学における発達論を学ぶ 4.子どもと家族を取り巻く社会について学習する					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1	子どもの成長・発達	1)成長・発達とは 2)成長・発達の進み方(一般的原則) 3)成長・発達に影響する因子 4)成長の評価 5)発達の評価	講義			
2 3 4 5	乳児期の子どもの 成長・発達と看護	1)乳児期とは 2)形態的特徴、身体生理の特徴 3)感覚機能、運動機能、知的機能 4)コミュニケーション機能、情緒・社会的機能 5)乳児の養育および看護 ・日常生活の世話 ・遊びの支援 ・事故防止、乳幼児突然死症候群とその予防 ・育児支援	講義・演習  グループワーク  調乳演習 (離乳食試食)			
6 7	幼児期の子どもの 成長・発達と看護	1)幼児期とは 2)形態的特徴、身体生理の特徴 3)感覚機能、運動機能、知的機能 4)コミュニケーション機能、情緒・社会的機能 5)幼児の養育および看護	講義			
8 9	学童期の子どもの 成長・発達と看護	1)学童期とは 2)形態的特徴、身体生理の特徴 3)感覚・運動機能、知的・情緒機能、社会的機能 4)不適応行動・症状 5)学童を取り巻く諸環境 6)学童の養育および看護	講義			
10 11	思春期・青年期の 子どもの成長・発達と 看護	1)思春期・青年期とは 2)形態的特徴、身体生理の特徴 3)知的・情緒(心理)的・社会的機能 4)生活の特徴 5)心理・社会的適応に関する問題 6)飲酒・喫煙 7)性に関する健康問題 8)反社会的・逸脱行動 9)事故・外傷 10)思春期の看護	講義 グループワーク			
12	家族の特徴と アセスメント	1)子どもにとっての家族とは 2)家族アセスメント	講義			
13 14 15	子どもと家族を取り巻く 社会	1)児童福祉 2)母子保健 3)医療費の支援 4)予防接種 5)学校保健 6)食育 7)特別支援教育 8)臓器移植 9)子どもの虐待と看護	講義 グループワーク			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院					
参考資料	ナーシングチャンネル 小児看護					
成績評価	終講時学科試験 レポート 参加度					

シラバス 番号	64	科目名	健康障害を持つ小児の看護		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次後期	単位数	1		時間数	30
担当講師	非常勤講師3名 専任教師1名					
授業概要	健康障害が小児及び家族について及ぼす影響について理解し、あらゆる健康状態にある小児及びその家族の看護について理解する					
授業目標	1.小児各期によく見られる健康問題の症状を理解し、援助について学習する 2.生命の危機状態にある子どもとその家族への支援を学習する 3.子どもがおかれた様々な状況(環境)に特徴づけられる看護を理解する					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1 2 3	代表的な小児 疾患の理解	1) 新生児期に多い疾患・症状 (新生児一過性多呼吸・呼吸窮迫症候群・脳室周囲白質軟化症 未熟児網膜症・ファロー四徴症・心房中隔欠損症・心室中隔欠損症 新生児黄疸・動脈管開存症・新生児メナ・低血糖) 2)染色体異常(ダウン症候群・18トリソミー・性染色体異常) 3)感染症(麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘・髄膜炎 B群溶血性レンサ球菌感染症・梅毒) 4)神経疾患:脳性麻痺・進行性筋ジストロフィー	講義			
4 5	病気・障害をも つ子どもと家族 の看護	1) 病気・障害が子どもと家族に与える影響 (1) 病気・障害に対する子どもの反応 (2) 子どもの病気・障害に対する家族の反応 2) 子どもの健康障害と看護 (1) 健康問題を持つ子どもと家族の看護の方向性 (2) 子どもの治療・健康管理にかかわる看護 (3) 子どもの日常生活にかかわる看護 (4) 健康問題をもつ子どもの家族の看護	講義 グループワーク			
6	子どもの状況 (環境)に特徴づ けられる看護	1) 外来における子どもと家族の看護 (1) 子どもを対象とする外来の特徴と看護の役割 (2) 外来の環境	講義・演習 ビデオ			
7		2) 在宅療養中の子どもと家族の看護 (1) 在宅療養の環境と看護の役割 (2) 在宅療養中の子どもと家族の特徴・看護	講義 グループワーク			
8	障害のある子ど もと家族の看護	1) 障害の捉え方 2) 障害のある子どもと家族の特徴 3) 障害のある子どもと家族への社会的支援	講義			
9	子どもの状況 (環境)に特徴づ けられる看護	1) 災害時の子どもと家族の看護 (1) 被災地の環境と看護の役割 (2) 災害時の子どもと家族の特徴・看護	講義			
10 11	子どもにおける 疾病の経過と看 護	1) 慢性期にある子どもと家族の看護 2) 慢性状態が子どもに与える影響 3) 症例を用いて病態の理解 (I型糖尿病・気管支喘息・ネフローゼ症候群)	講義 グループワーク			
12 13 14		1) 急性期にある子どもと家族の看護 2) 症例を用いて病態の理解 (肺炎・川崎病・幽門狭窄症・腸重積・腸炎)	講義 グループワーク			
15		1) 終末期にある子どもと家族の看護 (1) 子どもの生命・死のとりえ方 (2) 子どもを亡くした家族の看護 (3) 終末期における多職種チームアプローチ	講義			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院					
参考資料	ナーシングチャンネル 小児看護					
成績評価	終講時学科試験 レポート 参加度					

シラバス 番号	65	科目名	小児看護技術		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師2名					
授業概要	技術は子どもの安全のうえで大切である。一人ひとりの子どもの権利を擁護し、子どもに安全で安楽なケアを提供していく。基礎看護学などでの学びを基礎に、成長・発達途上にあるがゆえに、環境の影響を受けやすく変化が早い、健康が障害された小児の理解と特性に応じた看護援助技術の方法を学ぶ					
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児各期(乳児期・幼児期・学童期・思春期)の子どもの生活を理解する</li> <li>2. 小児各期(乳児期・幼児期・学童期・思春期)の子どものアセスメントを行うために必要な援助技術を習得する</li> <li>3. 健康問題をもつ子どもおよび親・家族への援助を計画し、実践を試みる</li> <li>4. 行った実践を評価し、さらなる看護の展開を試みる</li> <li>5. 医療チームの一員として、看護職が行う健康問題をもつ子どもおよび親・家族に対する役割を理解する</li> </ol>					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1 2	子どものアセスメント	1)コミュニケーション(乳児、幼児、学童期、思春期) 2)特別なニーズのある子どもとのコミュニケーション 3)家族(親)とのコミュニケーション 4)子どもへの説明と同意	講義 グループワーク ロールプレイ			
3		1)バイタルサインの測定 2)身体計測 3)身体的アセスメント	講義、演習			
4 5		症状を示す子どもの看護	1)発熱時のアセスメントと看護 2)脱水時のアセスメントと看護 3)痙攣時のアセスメントと看護	講義		
6 7	検査・処置を受ける子どもの看護	1)子どもにとっての検査・処置体験 2)与薬:経口与薬、座薬、注射 3)輸液管理	講義・演習 ビデオ			
8 9		4)抑制 5)検体採取:採尿、採便、採血、骨髄穿刺、腰椎穿刺	講義・演習			
10		6)経管栄養 7)浣腸	講義・演習			
11 12 13		8)呼吸症状の緩和:鼻腔・口腔・気管内吸引、酸素療法、吸入療法 9)救命処置	講義・演習			
14		子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	1)入院中の子どもと家族の看護 2)入院環境と看護の役割 3)入院中の子どもと家族の特徴 4)入院中の子どもと家族の看護	講義 グループワーク		
15		子どもにおける疾病の経過と看護	1)周手術期の特徴 2)周手術期の子どもと家族の看護 3)プレパレーション	講義・演習 ビデオ		
テキスト		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院				
参考資料	ナーシングチャンネル 小児看護					
成績評価	終講時学科試験 レポート 参加度					

シラバス 番号	66	科目名	母性看護学の概論		科目の 区分	専門分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	15
担当講師	専任教師					
授業概要	母性看護の基盤となる概念を、母性看護を实践するうえでの考え方や方向性と関連付けて学ぶ。また、女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指した看護を基盤として、次世代の健全育成を目指す看護を学ぶ。					
授業目標	ライフサイクルにおける母性の特性と起こりやすい健康障害を持つ人々とその人をとりまく人々への看護について理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1	母性看護の基盤となる概念	1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシュアリティ 4) リプロダクティブヘルス/ライツ	講義			
2	母性看護の基盤となる概念	1) 母性看護のあり方	講義 DVD視聴			
3		2) 母性看護における倫理				
4	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1) 母子保健統計 2) 法律と制度 3) 母性看護に関わる施策	講義			
5	女性のライフステージ各期における看護	1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護 2) 思春期の健康と看護	講義			
6	リプロダクティブ・ヘルスケア	1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) 人工妊娠中絶と看護	講義			
7	リプロダクティブ・ヘルスケア	1) 性暴力を受けた女性に対する看護 2) 児童虐待と看護 3) 国際化社会と看護	講義 DVD視聴			
8	リプロダクティブ・ヘルスケア	災害時における女性と妊産婦・新生児への支援	講義			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院					
参考資料	ナーシングチャンネル 母性看護					
成績評価	終講時学科試験、レポート、参加度					

シラバス 番号	67	科目名	周産期の看護1		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名 専任教師2名					
授業概要	<p>・妊娠期の妊婦および家族の看護について、妊娠期の身体的変化、心理・社会的変化をまず理解する。そのうえで、妊婦及び胎児のアセスメント、妊婦の保健相談、家族を含めた看護を学ぶ。</p> <p>・分娩期の産婦の看護について、分娩の経過に伴う身体的変化および、心理・社会的変化を理解し、アセスメントおよび援助の実際を学ぶ。</p>					
授業目標	妊婦・分娩の生理を理解し、この時期にある人々とその人をとりまく人々への看護を理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1	妊娠期の看護	妊娠の成立（月経周期も含む） 妊娠期間と分娩予定日	講義			
2		妊娠期の身体的特徴 妊娠期の心理的特徴	講義			
3		胎児の発育と胎児付属物の機能 妊婦健康診査の概要、妊婦への検査	講義			
4		妊娠経過のアセスメント ヘルスアセスメントに必要な技術	講義			
5		ヘルスアセスメントに必要な技術	演習			
6		健康状態を保持・増進するための看護	グループワーク			
7		予測される問題と看護 出産準備への看護				
8		健康状態を保持増進するための看護				
9		予測される問題と看護 出産準備への看護	グループワーク発表			
10	分娩期の看護	分娩期にある対象の特性 分娩期に必要な用語 分娩の現象の経過・解剖	講義			
11		分娩が母胎に及ぼす影響 分娩経過に影響を及ぼす因子 産痛	講義 グループワーク			
12		分娩の開始・予測 分娩経過の判断 胎盤娩出・胎児の状態				
13		分娩経過の予測 バースプランについて				
14		入院時に必要な情報 看護計画	VTR視聴 グループワーク			
15		分娩時に必要な情報 看護計画				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院					
参考資料	ナーシングチャンネル 母性看護					
成績評価	終講時学科試験 レポート 出席状況					

シラバス 番号	68	科目名	周産期の看護2		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師2名 専任教師1名					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>産褥期の褥婦及び家族の看護について、褥婦の身体的変化の理解、産褥経過の診断、褥婦の健康状態のアセスメント、および褥婦・家族の心理的・社会的変化の理解を通して学ぶ。</li> <li>新生児の看護では、出生を境にした胎児から新生児への生活環境および生理的变化を理解し、児の健康な発達を援助する。</li> </ul>					
授業目標	産褥・新生児の生理を理解し、この時期にある人々とその人をとりまく人々への看護を理解する。					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1	産褥期の看護	産褥期看護の特徴	講義 グループワーク			
2		産褥期の身体的特徴				
3		母乳分泌 産褥期の心理社会的特徴				
4		復古に関する看護 退院後の生活調整への支援				
5		母乳育児に関する看護 産褥経過のアセスメント				
6		母性看護過程演習		演習 グループワーク		
7		事例のアセスメント・看護計画立案				
8		沐浴演習				
9		産褥期の看護シミュレーション		演習		
10		育児支援		講義 グループワーク		
11	新生児の看護	新生児の定義 新生児の形態・機能 体外生活への適応(循環・体温・消化)	講義			
12		新生児の観察 新生児の診断・検査・評価 新生児の代表的な疾患・治療・看護	講義			
13		新生児の看護 出生直後、出生直後から退院まで 産前訪問、母子同室、清潔、環境、医療事故	講義 グループワーク			
14		新生児の成長・発達を促す看護 早産児・低出生体重児の特徴 ディベロップメンタルケア	講義			
15		疾患を持つ新生児の家族の看護 新生児の家族の看護、看取りの看護	講義 グループワーク			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院					
参考資料	ナーシングチャンネル 母性看護					
成績評価	終講時学科試験 レポート 参加度 出席状況					

シラバス 番号	69	科目名	周産期の看護3	科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次後期	単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師				
授業概要	「母性看護学の概論」「周産期の看護1・2」での学びを土台に、妊産褥婦に起こり得る正常を逸脱した状況における看護及びその家族について学習し理解を深め、更に予防について考える。				
授業目標	ハイリスクを伴った周産期にある人々とその人をとりまく人々への看護を理解する。				

授業計画

回	項目	内容	方法		
1	妊娠の異常と 看護	・ハイリスク妊娠とは	講義・課題学習		
2		・高齢妊婦（出生前診断も含む） ・若年妊婦の看護			
3		・多胎妊娠	講義・課題学習		
4		・妊娠高血圧症候群妊婦の看護	課題学習		
5		・切迫流・早産妊婦の看護 ・糖尿病妊婦の看護 ・妊娠性貧血妊婦の看護	グループワーク 振り返り まとめ		
6	分娩の異常と 看護	・破水が生じた産婦の看護	講義・課題学習		
7		・分娩時異常出血のある産婦の看護	講義・課題学習		
8		・胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護	講義		
9		・急速遂娩(吸引分娩・鉗子分娩・帝王切開)を受ける産婦の看護 (陣痛の異常も含む)	講義		
10		・分娩遷延のリスクのある産婦の看護	講義・演習		
11	産褥の異常と 看護	・感染症を持っている褥婦の看護	講義		
12		・産後の精神障害について	グループワーク		
13		・帝王切開術後の看護	講義 課題学習 振り返り まとめ		
14	その他問題を 持つ褥婦・家 族の看護	・死産・障害がある新生児を出産した親の看護	講義		
15			課題学習 グループワーク 振り返り まとめ		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院				
成績評価	終講時学科試験(80%) 課題学習(レポートも含む)(20%)				

シラバス 番号	70	科目名	精神看護学の概論		科目の 区分	専門分野
履修年次	1年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師					
授業概要	精神の構造と機能を理解し、健康レベルと障害との関連や精神の不健康状態について学ぶ					
授業目標	1. 精神の健康・不健康とは何か、「正常」と「異常」をはかるものさしとなっている「ふつう」というものさしについて考える 2. 精神の健康の定義、健康や障害の3側面を理解する 3. 心のさまざまなはたらきとしくみについて生理学的・心理学的・社会的側面から理解する 4. 代表的な精神療法の基本的考え方を理解する					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1	精神看護学の考え方(1)	1)こころとは何か 2)こころの捉え方	講義			
2	精神看護学の考え方(2)	3)こころの多様な側面1	グループワーク			
3	精神看護学の考え方(3)	4)こころの多様な側面2	発表と相互評価			
4	心の構造と働き(1)	1)認知と感情	講義・演習			
5	心の構造と働き(2)	2)学習と行動1	講義			
6	心の構造と働き(3)	3)学習と行動2	講義			
7	心の構造と働き(4)	4)パーソナリティー	講義・演習			
8	心の発達(1)	フロイトとエリクソン	講義			
9	心の発達(2)	ピアジェ、ボウルビィ、レヴィンソン他	講義			
10	家族論	1)家族のイメージ 2)家族の機能 3)システムとしての家族	講義・演習			
11	精神保健の考え方(1)	1)正常と異常	講義			
12	精神保健の考え方(2)	2)ストレスとその対処 3)自己効力感	講義・演習			
13	主な精神疾患	1)統合失調症 2)気分障害 3)その他の疾患	講義			
14	精神疾患の治療	1)薬物療法 2)精神療法 3)社会・環境療法	講義			
15	看護の倫理と人権擁護	1)精神医療におけるアドボカシーの必要性 2)生活の場としての治療環境 3)様々な拘束の形 4)精神障害者の権利擁護	講義			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院					
成績評価	終講時試験、グループワークへの参加と発表評価					

シラバス 番号	71	科目名	精神障害を持つ人の理解		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次前期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師					
授業概要	精神看護の基本概念や精神医学の診断・治療を理解し、看護援助に活かす					
授業目標	1.精神機能(思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶など)の障害であるさまざまな精神症状を学ぶ 2.精神障害の診断と分類、それに基づくさまざまな精神障害について学ぶ 3.精神科における身体療法、精神療法について学ぶ					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1	1.精神医療と看護の歴史的変遷	1)日本の精神保健医療看護の歴史 2)精神医療の現状と問題	講義 DVD			
2	2.精神障害の分類と特徴	1)統合失調症				
3		2)気分障害				
4		3)不安障害 4)人格障害(パーソナリティ障害) 5)アルコール依存症				
5		6)身体表現性障害 7)PTSD 8)認知症				
6		3.医学的検査と心理検査		1)脳波検査 2)脳の画像検査 3)脳脊髄液検査 4)知能検査 5)記銘力検査 6)人格検査		
7	4.治療の構造 1)身体療法	(1)薬物療法 (2)電気けいれん療法				
8	2)精神療法	(1)個人・集団精神療法 (2)家庭(社会)精神療法				
テキスト	精神看護学Ⅰ 精神保健学 第6版 NOVELL HIROKAWA 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版 NOVELL HIROKAWA					
参考資料	ナーシングチャンネル 精神看護					
成績評価	終講時試験					

シラバス番号	72	科目名	精神に障害を持つ人の生活と看護		科目の区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師					
授業概要	精神に障害を持つ人への援助の実際を学ぶ					
授業目標	1.精神に障害をもつ人の共感的理解を通じて、種々の疾患や症状およびその治療過程における看護を理解する 2.症状による苦痛の軽減や生活上の困難を補うこと、また健康の回復と社会復帰に向けた自立の支援について学習する					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	精神看護の考え方  精神を病む人の理解と対応	1)精神看護の考え方 2)精神看護師の役割 3)精神看護の経済性 1)精神疾患患者の理解 2)行動制限と看護	講義 映画鑑賞
2	精神を病む人の理解と対応	3)急性期から回復期・慢性期の看護	
3	精神看護のリスクマネジメント  精神看護に用いる理論・モデル	1)リスクマネジメントとは 2)精神科医療における医療事故 3)事故防止と対応 4)無断離院の防止と対応 セルフケア理論	
4 5	精神を病む人への看護援助の基本	1)日常生活援助 2)活用する技法  コミュニケーション ロールプレイング カウンセリング SST  作業療法 面接 レクリエーション	
6	精神看護の看護過程  司法精神看護	精神看護の看護過程 1)司法精神医療と医療観察法 2)医療観察法における処遇 3)CVPPP	
7	精神看護の実践  症状アセスメントとケアプラン	1)幻覚・妄想患者の看護 2)せん妄患者の看護 3)抑うつ状態の患者の看護	
8		4)興奮状態の患者の看護 5)拒絶的な患者の看護 6)引きこもり状態の患者の看護	
9		7)操作をする患者の看護 8)自殺・自傷行為がある患者の看護 9)不眠状態の患者の看護	
10		10)依存状態の患者の看護 11)認知症の患者の看護 12)不安状態の患者の看護	
回	項目	内容	
11		13)意欲減退状態の患者の看護 14)攻撃的行動をとる患者の看護 15)強迫行為のある患者の看護	講義

12		16) 躁状態の患者の看護 17) 解離性障害の患者の看護 18) 摂食行動の障害の患者の看護
13		19) パニック障害の患者の看護 20) 児童・思春期・青年期の精神看護 21) 身体合併症患者の看護
14	精神障害者のリハビリテーション	精神科リハビリテーション
15	精神訪問看護	精神訪問看護の実際
テキスト	精神看護学Ⅰ 精神保健学 第6版 NOUVELLE HIROKAWA 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版 NOUVELLE HIROKAWA	
参考資料	ナーシングチャンネル 精神看護	
成績評価	終講時試験	

シラバス 番号	73	科目名	生活の場と精神保健		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次後期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師					
授業概要	精神保健医療福祉における現状と支援活動、災害精神保健活動について学ぶ					
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害者の人権を守り、地域生活を支えていくための援助を理解する</li> <li>2. 日本の地域精神保健の動きを理解する</li> <li>3. 精神障害者の地域生活を支える社会制度の基盤となる考え方を理解する</li> <li>4. 社会生活の場における精神福祉サービスの実際を理解する</li> </ol>					

#### 授業計画

回	項目	内容	方法
1	精神保健医療福祉の実際	新聞やインターネット等で配信されている最新の精神保健・医療・福祉の実際について資料学習	資料、パワーポイント、DVD
2	家庭・学校・職場の精神保健	テキスト「精神保健と社会」①～③の項目に沿って解説。課題分析のためのアセスメントの個人ワーク学習	テキスト、資料、パワーポイント、DVD 視聴
3	保健医療に関する資源の活用と調整	テキスト「精神保健と社会」④の項目に沿って解説。精神病院や行政機関の支援の実際紹介	
4	社会資源の活用とケアマネジメント	テキスト「社会保健と社会」⑤の項目に沿って解説。姫路市内の障害福祉サービス事業所の活動と支援技術であるケアマネジメントの視点・技術を学習	
5	災害時地域精神保健医療活動	阪神大震災以降活動している行政と精神科病院が連動して取り組んでいる災害時の支援を学習 ひょうごDPAT活動やサイコロジカルファーストエイドの実際を確認	
6	社会復帰・社会参加の基本	テキスト「精神保健と社会」⑦の項目に沿って解説。精神保健福祉法等における退院支援について説明	
7	事例学習	模擬事例を用いた、精神病院からの退院支援の実際についてのグループワーク	
8	まとめ	これまでの講義の振り返り	
テキスト	精神看護学 I 精神保健学 第6版 NOUVELLE HIROKAWA		
参考資料	ナーシングチャンネル 精神看護		
成績評価	終講時試験		

シラバス 番号	74	科目名	災害看護学		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年次前期・後期	単位数	1		時間数	30
担当講師	非常勤講師2名 専任教師2名					
授業概要	赤十字の理念である人道の具現化として赤十字災害救護活動への理解を深めることを目的とする。 また、講義で学んだ知識と共に救護技術の習得を目指し、災害救護演習を実施する。 災害救護訓練では、災害時に看護専門職の救護活動に必要な判断力と意思決定、基本的な救護技術、心構えと態度、行動力を習得する。					
授業目標	1. 災害看護に求められる役割を理解する。 2. 災害看護に必要な知識・技術を習得する。 3. 災害サイクルに応じた災害看護を学ぶ。 4. 被災者や救護者のこころのケアを学ぶ。 5. 赤十字救護班の役割と活動を学ぶ。					

授業計画

回	項目	内容	方法
1	災害看護の基礎知識	1. 災害看護の定義と役割 2. 災害看護の対象 3. 災害看護の特徴と看護活動	講義
2	赤十字と災害看護	1. 赤十字の理念と災害看護 2. 赤十字災害看護の法的根拠 3. 赤十字救護班 1) 救護班の編成と救護員の役割 2) 救護所の設営と運営・救護資機材	講義
3 4	災害とこころのケア	1. 被災者のこころのケア 2. 遺族のこころのケア 3. 被災救援者のこころのケア 4. 救援者のストレスとこころのケア	講義 グループワーク
5 6 7	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	1. 災害サイクル別の看護 2. CSCATTTの考え方 トリアージと応急処置 トリアージタグの取り扱い方 3. 災害看護活動の実際 1) 被災病院の初動体制・傷病者受け入れ 2) 救護所の立ち上げと傷病者対応 3) 避難所における健康と生活支援 4) 災害準備教育 4. 被災者特性に応じた災害看護の展開	講義 演習
8 9 10 11	救護所での医療活動	1. 救護所の設営 ①設営場所および救護所内のレイアウト ②人員および救護資機材の配置 2. 総合シミュレーション ①メンバーの役割決定と連携 ②救護活動、応急処置の確認 ③トリアージ・応急手当・搬送	講義 演習
12 13	災害救護演習	トレーニングセンター 1. 基礎行動訓練、救護資機材の取扱い 2. 災害救護演習 救護班の役割を体験する	合同演習
15	演習まとめ	1.振り返り 2.課題	ディスカッション

テキスト	系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 医学書院
参考資料	ナーシングチャンネル 災害看護
成績評価	課題レポート(演習等の参加度を加味する)、終講時学科試験

シラバス 番号	75	科目名	医療安全		科目の 区分	専門分野
履修年次	2年生後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	非常勤講師1名 専任教師1名					
授業概要	人間の尊厳と生命の安全を守る看護者としての責任を果たすためのリスクに関する感性を高め、医療事故を未然に防ぐ基礎的能力を身につける					
授業目標	1. 医療安全を学ぶ意義とその重要性について理解する 2. 国および医療関係団体の医療安全への取り組みを理解する 3. 事故発生のメカニズムおよび自己分析、事故対策について理解する 4. 看護業務に関連する事故と安全対策について理解する 5. チームで取り組む安全文化の醸成について理解する 6. 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策について理解する 7. 看護学生の実習と安全について理解する					

授業計画

回	項目	内容	方法			
1	医療安全を学ぶ意義	1) 人はなぜ間違いをおかすのか 2) 意識状態の変動と医療安全 3) 人間の3つの行動モデルと医療安全 4) 看護職を選ぶことの重さと安全努力の責務	講義			
2 3 4	看護職の法的規定 医療安全の取り組み 事故発生のメカニズム	1) 看護職の法的規定 2) 国の医療安全への取り組み 3) 看護職能団体の取り組み 4) 事故発生のメカニズム	講義 グループ ワーク			
5	事故防止の考え方	1) 医療事故と看護業務 2) 看護事故の構造 3) 看護事故防止の考え方	講義			
6 7	診療の補助の事故防止	1) 注射業務と事故防止 2) 輸血業務と事故防止 3) 内服与薬業務と事故防止 4) 経管栄養(注入)業務と事故防止 5) チューブ管理と事故防止	講義			
8	療養上の世話の事故防止	1) 転倒・転落事故防止 2) 誤嚥、異食、入浴中の事故防止				
9	患者間違いと発生要因	1) 要因と防止 2) 多重課題、タイムプレッシャー、業務中断 3) 思い込みと行動パターン				
10	医療安全とコミュニケーション	1) 医療職種間および患者とのコミュニケーション				
11	看護師の労働安全衛生上の事故防止	1) 職業感染、抗がん剤の曝露防止、放射線被曝、院内暴力				
12	組織的な安全管理体制への取り組み	1) 組織としての医療安全対策 2) システムとしての事故防止 3) 事故発生時の医療チームおよび組織の対応				
13	看護学生の実習と安全	1) 実習における事故の法的責任と補償 2) 実習中における事故予防及び事故発生時の学生の対応 3) 実習における安全についての指導者の役割	講義			
14 15	事例から考えよう	インシデント・アクシデント分析方法	グループ ワーク			
テキスト	系統看護学講座 統合分野 医療安全 医学書院					
参考資料	ナーシングチャンネル 医療安全					
成績評価	終講時学科試験					

シラバス 番号	76	科目名	看護管理		科目の 区分	専門分野
履修年次	3年次前期		単位数	1	時間数	15
担当講師	非常勤講師					
授業概要	看護を提供するための資源(人的資源・物的資源・財的資源)を有効利用し、それを維持・活用するためのしくみ(マネジメント)を学ぶ。 看護をしくみとしてとらえ、それがどのようになっているのか、問題はなにか、どのような改善策があるのか、どのようにすればよりよい看護が提供できるのかななどを追求し、同時に多数の人々がともに働くための技を学ぶ。					
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理学に含まれる要素、看護におけるマネジメントが必要とされる場、変遷について理解する。</li> <li>2. 看護職の提供する看護ケアのマネジメント、安全管理、チーム医療について理解する。</li> <li>3. 看護職として社会で仕事をしていくためのキャリアマネジメントについて理解する。</li> <li>4. 看護サービスのマネジメントの対象と範囲、看護サービス提供のための仕組みと評価、組織におけるマネジメントについて理解する。</li> <li>5. 看護におけるマネジメントを学ぶにあたって必要な知識として、看護の定義や諸制度について理解する。</li> </ol>					

#### 授業計画

回	項目	内容	方法		
1	看護とマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護管理学</li> <li>・看護におけるマネジメント</li> </ul>	講義		
2 3	看護ケアのマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マネジメントと看護職の機能</li> <li>・患者の権利と尊重</li> <li>・安全管理</li> <li>・チーム医療</li> <li>・看護業務の実践</li> </ul>	講義 グループワーク		
4	看護職のキャリアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアとキャリア形成</li> <li>・看護職のキャリア形成</li> <li>・タイムマネジメント</li> <li>・ストレスマネジメント</li> </ul>	講義		
5 6	看護サービスのマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織目標達成のマネジメント</li> <li>・看護サービス提供のしくみづくり</li> <li>・人材マネジメント</li> <li>・施設・設備環境のマネジメント</li> <li>・物品のマネジメント</li> <li>・情報のマネジメント</li> <li>・組織におけるリスクマネジメント</li> <li>・サービスの評価</li> </ul>	講義 グループワーク		
7	看護を取り巻く諸制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職に関する制度</li> <li>・医療制度</li> <li>・看護政策と制度</li> </ul>	講義		
8	マネジメントに必要な知識と技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織とマネジメント</li> <li>・リーダーシップとマネジメント</li> <li>・組織の調整</li> </ul>	講義		
テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護管理 医学書院				
成績評価	終講時学科試験				

シラバス 番号	77	科目名	統合技術演習		科目の 区分	専門分野
履修年次	3年次後期		単位数	1	時間数	30
担当講師	専任教師					
授業概要	臨床実践に近い状況下で総合的な判断・対応を体験することにより、卒後の看護業務遂行のイメージができる。 臨床に近い状況下での演習を通して、3年間の学習で習得した知識・技術・態度を統合し、対象に応じた看護を実践できる能力を養う。					
授業目標	1. 複雑な看護場面において多重課題に優先順位をつけ、自己の対応能力をアセスメントして、同僚(他者)の支援の必要性の有無を判断しながら対処することができる。 2. 臨床実践能力の構造の中の看護技術を支える要素について考える。 より対象理解を深めたアセスメントを行い、その場に必要知識・技術を駆使して、安全・確実に看護を実践することができる。 3. 地域で過ごす対象に応じたケアマネジメントを考えることができる。 4. 演習やこれまでの学びを振り返り、自己の看護観や人道についての考えを深めることができる。					

#### 授業計画

回	項目	内容	方法
1	導入 課題提示	統合技術演習の意義・目的 演習1: 地域で安心して過ごすためのケアマネジメント (ケアプランの検討) 演習2: 割り込み事例への対応 演習3: 3年間の学びの共有	グループワーク 技術練習
2 3	ケアマネジメント	地域包括ケアシステムについて考える 模擬患者のアセスメントシートを参考にして患者が安心して暮らすために必要な支援・ケアプラン等を検討する	グループワーク
4 5	ケアマネジメント	地域で暮らすためのケアプランの立案	発表
6 7 8 9 10 11	技術練習 模擬患者演習	多重課題(割り込み)への対応 事例患者に対する看護援助を考える(援助計画立案) 実際にベッドサイドで援助を行う 実践の根拠を明確にする 優先順位、看護倫理に配慮する メンバーで協力する(チーム医療)	グループワーク
12 13	模擬患者演習	多重課題(割り込み)への対応	発表
14 15	看護体験の共有 まとめ	3年間の講義・演習・実習での学びを共有する 「人道」や「看護観」について考える	グループワーク 発表
テキスト	ナーシングチャンネル 全科目参考資料 資料配布		
成績評価	グループワーク: 参加度 技術練習: グループ評価、実技評価 看護体験の共有: 参加度 } これらを合わせて総合評価とする		